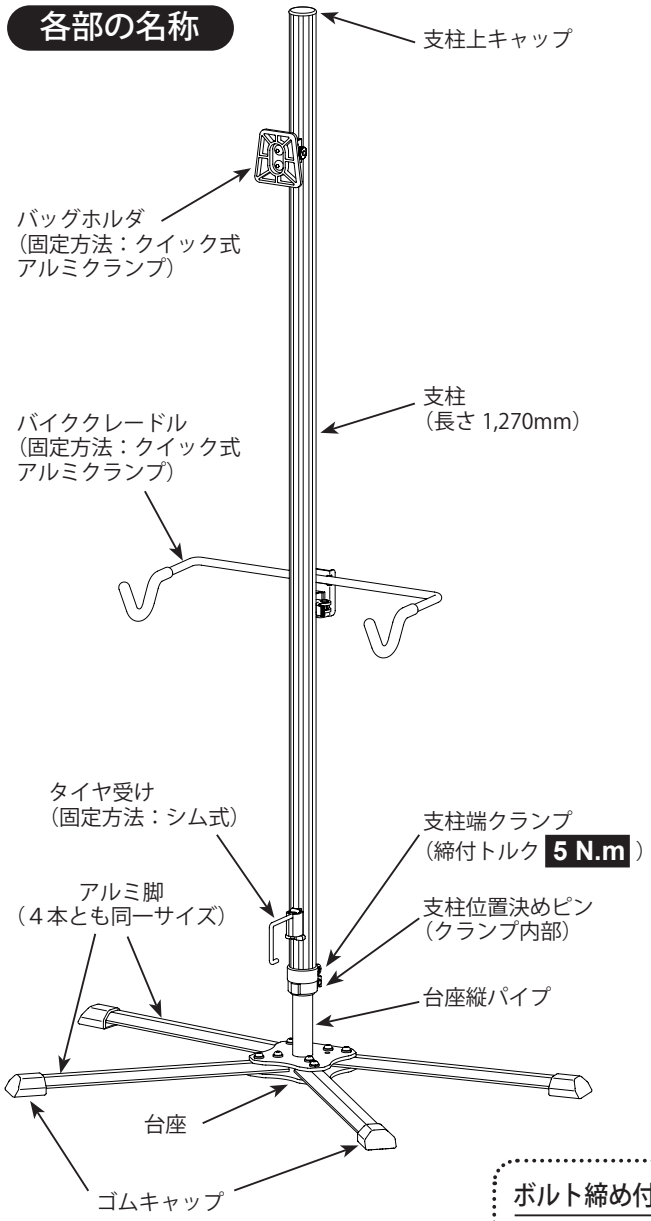
MINOURA 折り畳み小径車用　バイクピットタワー　取扱説明書

(ver.1.0 2019/11)

このたびは**折り畳み自転車用保持収納スタンド『バイクピットタワー』**をお買い求めくださいまして、まことにありがとうございます。
この**バイクピットタワー**は、部屋の中のみならず屋外など好きな場所で気軽に使用できるよう自立式としたベース支柱に、折り畳んだ自転車１台を掛けておくバイククレードルと、フロントバッグを掛けておくバッグホルダを装備しています。これらのアタッチメントは必要に応じて買い増して装着することもできます。
ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりとお読みになり、各注意事項を十分にご理解いただいた上で、正しく安全にお使いください。

各部の名称



必ず注意していただきたいこと

●**本商品は自立式のスタンドに折り畳み自転車１台とフロントバッグを１つ掛けてコンパクトに保管しておくためのセット品です。**
別売の「ホビータワー用オプションアタッチメント」を必要に応じて別途お求めになり、支柱に装着してご使用いただけます。

●４本の脚は、スタンド全体を壁際に寄せて使うための「K 字型」と、部屋の中央に設置しどの方向にもアタッチメントを取り付けられる安定重視の「X 字型」の２パターンに組むことができます。
K 字型で、背面にアタッチメントを取り付け重いものを装着すると、バランスを崩して転倒してしまう恐れがあります。背面にもう１台の自転車を掛ける場合は必ず X 字型にしてご使用ください。

●支柱の高さは、台座縦パイプにあるピンの位置で固定されています。伸ばして使うことはできません。

●耐荷重制限は、支柱部分での鉛直線方向荷重で 30kg までです。それ以上重いものは搭載しないでください。
また支柱から離れた偏った荷重での搭載はこれよりも少ない荷重でも不安定になりますから、荷重はできるだけ支柱に近づけた状態でお使いください。

●支柱は床に固定されているわけではありません。それにより展示している品物が落下しても弊社ではその責任を負いかねますので、その前提で飾り付けを行なってください。

●アルミ脚には高さ調整用のアジャスタなどは装備されていません。バイクピットタワーは必ず平坦で水平な床面の上でお使いください。傾斜していると支柱そのものが傾きバランスを悪化させることになります。
設置中にもし支柱が傾いていたとしたら、台座部分が破損している恐れがあります。その際は使用を中止し、すべてのものを下ろしたうえで販売店にまでご連絡ください。

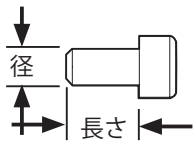
●ゴムキャップの材質は十分に吟味してありますが、床の材質や表面コートの種類によってはキャップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など汚損が許されない場合は、シートなどを敷いてお使いいただくか、ゴムキャップの裏側にテープなどを貼ってお使いください。

●タイヤ受けを正しく使わないと、自転車のフレームが直接支柱に当たり傷付けてしまう恐れがあります。タイヤ受けを正しくタイヤに当ててお使いください。

●ボルトの指定締付トルクは、M5 ボルトが **5 N.m**、M6 ボルトが **8 N.m** です。
これより弱いと十分に締め付けられていないために緩んでずれてくるおそれがあり、強すぎると部品の破損が危惧されます。

●本商品は品質向上のため予告なく仕様変更することがあります。
商品に関する情報は随時弊社ウェブサイトで公開しています。適宜参照するようにしてください。

ボルトサイズの読み方

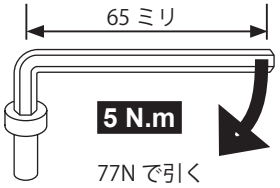


例）　M 5 × 14
径　長さ

（単位：ミリ）

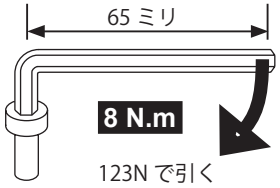
ボルト締め付け推奨トルクの目安①

付属の六角レンチの長さは 65 ミリなので、５ N.m の締め付けトルクとは、レンチ先端を 77N（約 7.9kgf）の力で引く程度になります。



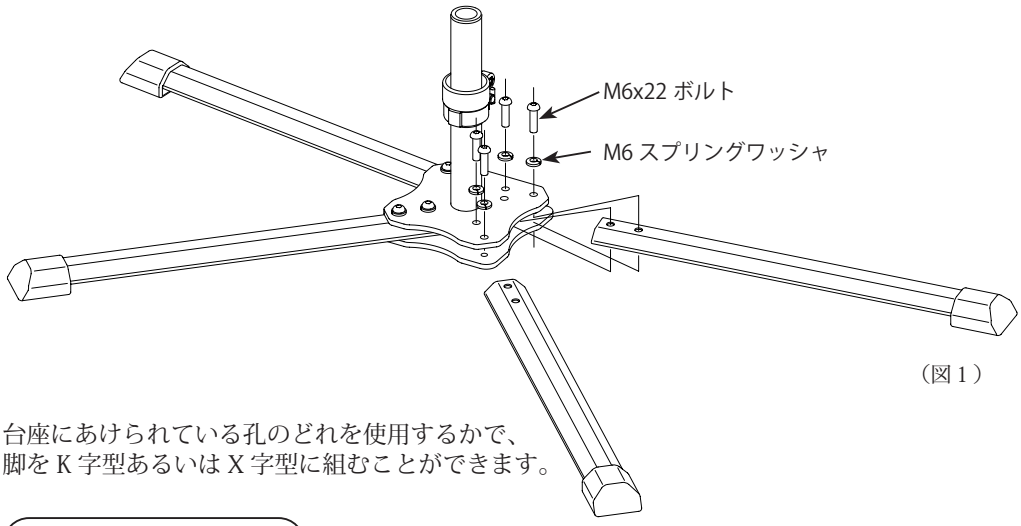
ボルト締め付け推奨トルクの目安②

付属の六角レンチの長さは 65 ミリなので、８ N.m の締め付けトルクとは、レンチ先端を 123N（約 12.5kgf）の力で引く程度になります。



1 脚を台座に組み付けます。

台座の２枚の板金具（外れません）の間に脚を差し込み、上側の板金具の上から M6 スプリングワッシャを通した M6x22 ボルトを通してアルミ脚の孔を貫通させ、下側金具のねじ孔に **8 N.m** でねじ込みます。（図 1）
アルミ脚１本あたりボルト２本で固定します。
ボルトは一気に締め込まず８本全体を**均等に**締めるようにしてください。

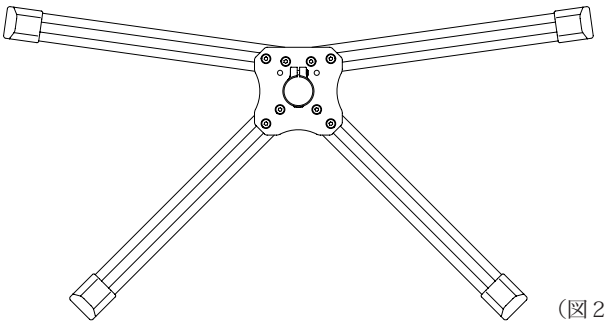


（図１）

台座にあけられている孔のどれを使用するかで、
脚を K 字型あるいは X 字型に組むことができます。

脚を K 字型に組む

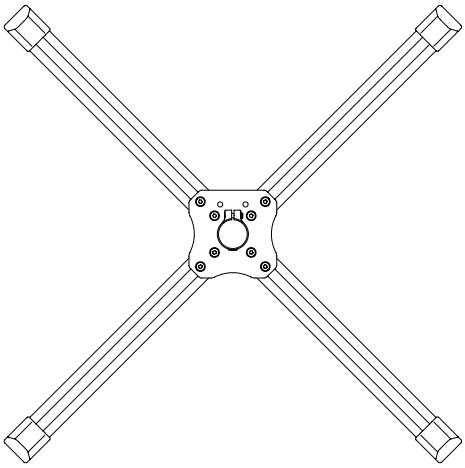
スタンドを壁に寄せて設置することができるようになります。必ず背後に壁が来る位置に設置してください。
この状態は背面方向に転倒しやすくなるため、荷重は手前側に寄せなければいけません。



（図２）

脚を X 字型に組む

どの方向の荷重にも耐えられるようになるため、部屋の中央などに置くことができるようになります。
支柱の手前面と背面の両方を同時に使った使用もできます。



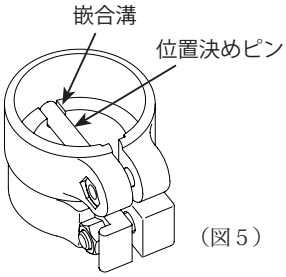
（図３）

2 台座に支柱を組み付けます。

まず支柱端クランプのボルトの上側だけを緩めます。

緩めすぎるとナットが落ちたりしますので注意してください。

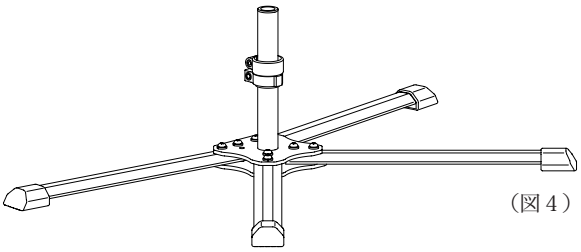
このときもしクランプが下がって外れてしまったら、台座縦パイプに横から挿してある位置決めピンがクランプの嵌合溝にきちんと入るように位置を合わせ直し、下側のボルトを締めて位置を固定してください。（図５）



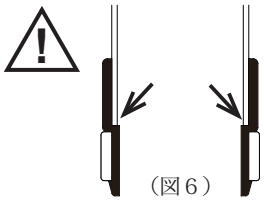
（図５）

支柱をクランプの奥いっぱいに差し込み（図６）ボルトを２本とも **5 N.m** でしっかりと締め付けます。

このとき支柱の向きも微調整してください。（図７）

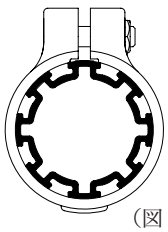


（図４）



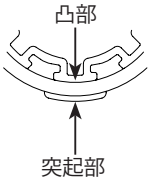
（図６）

中支柱はクランプの樹脂スリーブの奥いっぱいに突き当たるまで挿入します。浮いたままだと、設置後に不意に隙間が埋まるように下がってきて、不安定になってしまう恐れがあります。



（図７）

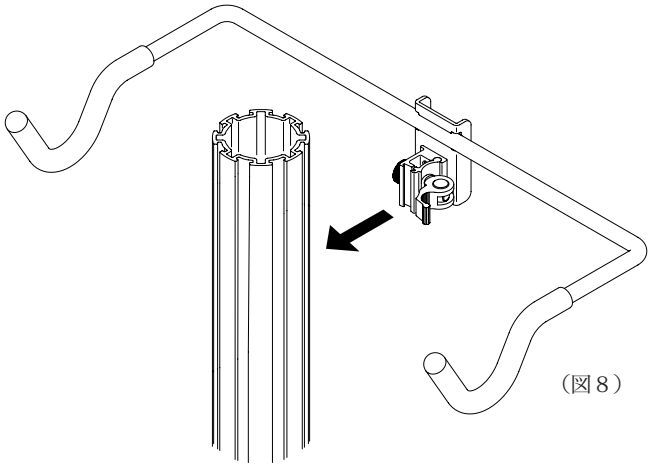
Point



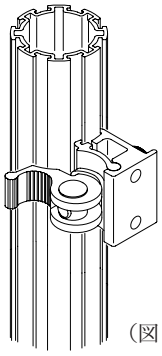
支柱端クランプの突起部と支柱のアタッチメント装着溝の凸面とを位置合わせしておくと、アタッチメントを正しく真正面に向けたり、左右対称の角度に装着できるようになります。（図7）

3 バイククレードルを組み付けます。

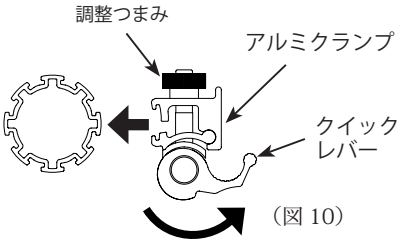
バイクピットタワーのバイククレードルは専用品で、ホビータワーの純正「クレードル A タイプ（HH-11）」とは支柱への装着方向が異なり、支柱背後からとなります。注意してください。（図８）



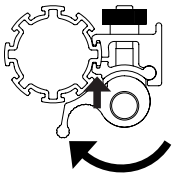
（図８）



（図９）



（図 10）



（図 11）

支柱に当たるまで倒して固定

① アルミクランプのクイックレバーを手前に引き、クランプの締め付けを解除します。（図 10）

② クランプ先端の爪部分で、支柱の凸部を左右から挟み込むようにして引っかけます。（図 11）

③ レバーを支柱に当たるまで押し込んで保持固定します。（図９）

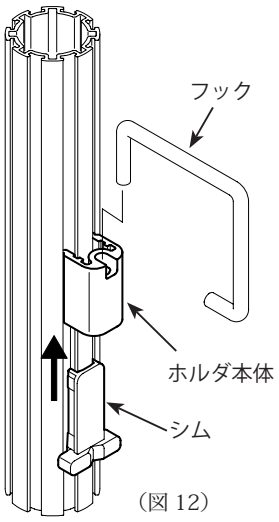
もし挟み込みが緩いあるいはきつ過ぎる場合は、レバーを倒す前に調整つまみを回して開き幅を微調整します。必ずしっかりと保持固定できるようにしないと、自転車が自重でずり落ちてきてしまいます。

④ クランプの高さを変えるときには、いったんレバーを引いて締付を解除し、支柱の溝からできるだけ外さないようにしてずらしてから、再びレバーを倒して固定します。

4 タイヤ受けを取り付けます。

タイヤ受けは、クレードルに吊り下げた自転車のフレームが支柱に直接当たり傷が付いてしまうのを防ぐために、フックをタイヤに当てて支柱から遠ざける役目のためにあります。（図 13）

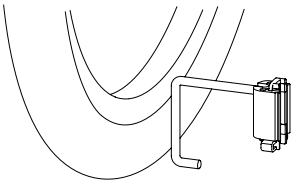
実際に自転車を掛けてからフックの高さを決めてください。



（図 12）

①
ホルダ本体を、フックを挿入する孔を上にして、支柱の凸部にはめ込みます。

②
シムをホルダの下から差し込みます。
いっぱいに押し込むとホルダが保持固定されます。

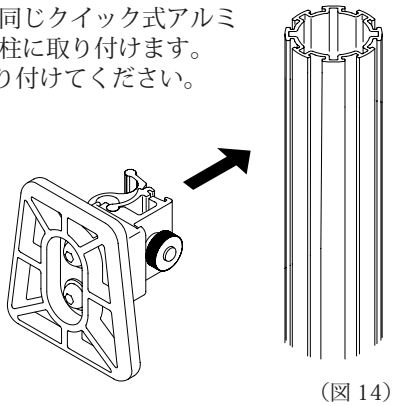


（図 13）

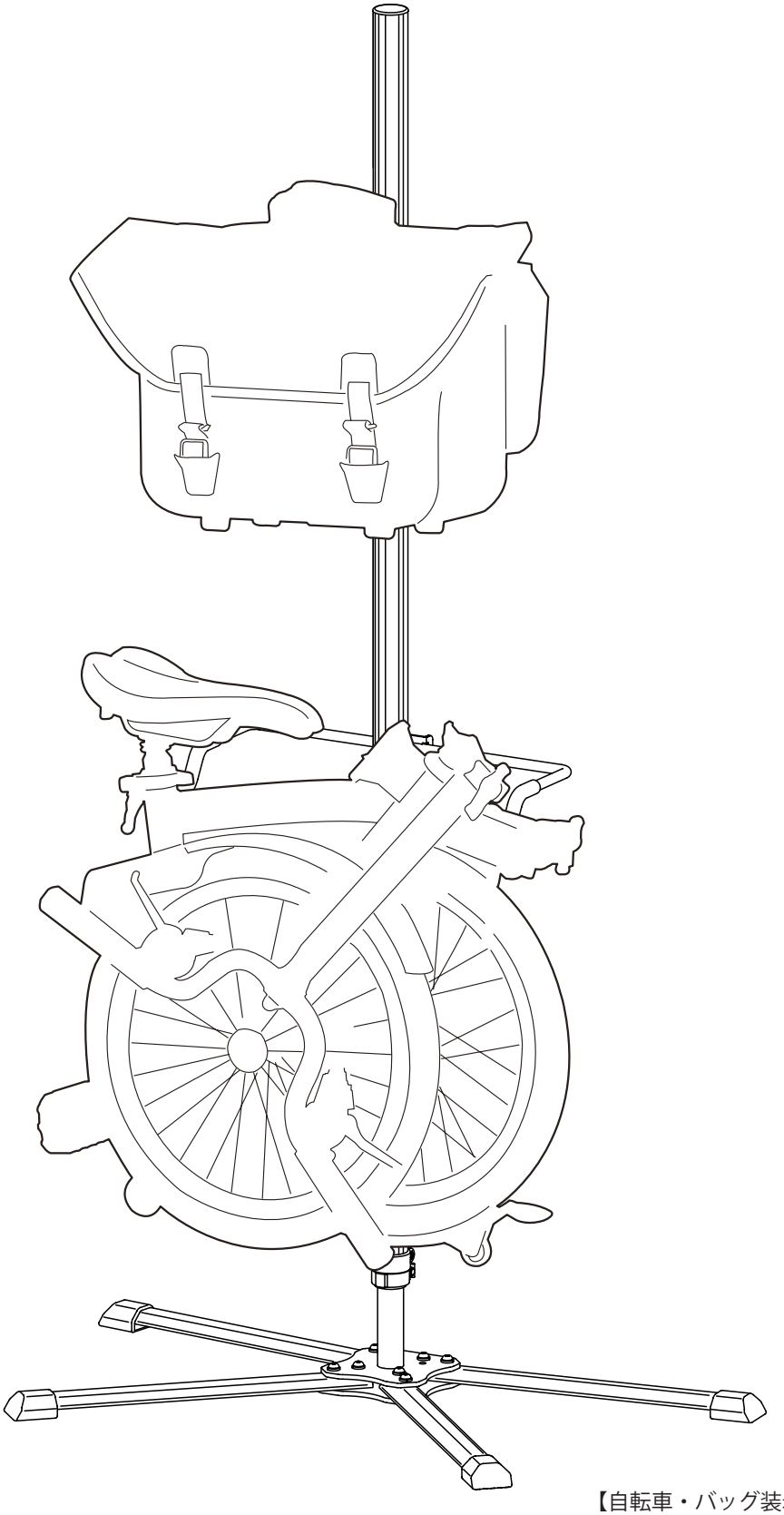
5 バッグ受けを取り付けます。

専用のフロントバッグを掛けるための装備です。
バッグ裏面の装着部をここに引っかけて保持します。
自転車側とは異なり、このバッグ受けには外れ止めのロックはありません。

バイククレードルと同じクイック式アルミクランプを用いて支柱に取り付けます。
図 11 を参照して取り付けてください。



（図 14）



【自転車・バッグ装着状態】

保証期間

本商品の保証期間は、お買い上げ日より **1 年間**です。詳しくは添付の「品質保証カード」をご参照ください。

問い合わせ先

株式会社　箕浦

〒 503-2312　岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1
Phone：(0584) 27-3131　／　Mail：minoura@minoura.jp【営業】infodesk@minoura.jp【カスタマーサービス】